

ChatGPT 4o

共有する

Hi

あなた:

多様な事業へ生成 AI の導入を加速する東芝の取り組み.docx
ドキュメント

要約を作成してください。

ChatGPT:

ChatGPT

以下は、文書「多様な事業へ生成 AI の導入を加速する東芝の取り組み」の要約です：

東芝の取り組み概要

- **背景とビジョン:** 東芝は「人と地球の明日のために」を経営ビジョンとして掲げ、エネルギー、インフラ、デジタルソリューションなどの多岐にわたる事業を展開。
- **生成 AI の導入意義:** 生成 AI がもたらす自然言語処理技術の進化に着目。プロジェクトを立ち上げ、業務効率化と新たな価値創造を目指す。

取り組みの詳細

1. 生成 AI の活用プロセス:

- 社内実証からスタートし、生成 AI 活用の民主化を推進。
- 従業員への教育プログラムやワークショップを実施し、AI 活用の啓発とスキル向上を支援。

2. 導入事例:

- 文書分類や翻訳作業を効率化。
- ソースコードのレビューや仕様書作成を AI で支援。
- 営業データの活用や、生成 AI を利用した顧客サービスの提供を推進。

3. 社内プロジェクトの構築:

- AI 活用を浸透させるため、部門別に効果を実感させる仕組みを構築。
- 「北風と太陽」のアプローチで、自発的な利用を促進。

成果と課題

- **成果:**
 - 業務効率化による時間短縮(例: 90 日かかっていた分類作業を 1 日に短縮)。
 - AI 活用による新たなサービス創出の兆し。
- **課題:**
 - 従業員間で生成 AI への関心や理解の差異が存在。
 - トップダウンとボトムアップの両面からの取り組みのバランスが重要。

今後の展望

- **フェーズの移行:**
 - 今年度は生成 AI の民主化を目標とし、来年度以降は多様化を図り、顧客と連携した新たな価値創出に注力。
- **人と AI の役割分担:**
 - AI を副操縦士（Copilot）として位置づけ、最終判断は人間が行う。
 - 判断力や軸を持つリーダーの育成が必要。

総括

東芝は生成 AI を単なる効率化ツールに留めず、組織全体の進化と顧客価値の創造に繋げる長期的なビジョンを持つ。生成 AI のポテンシャルを引き出すため、柔軟な取り組みと倫理的ガイドラインの策定を重視している。

4o

あなた:

それぞれのポイントについて、できるだけ本人の言い回し、表現を使って、詳細に要約してください。

ChatGPT:

ChatGPT

以下は、文書中の各ポイントについて、話者の表現や言い回しを取り入れた詳細な要約です。

1. 東芝の生成 AI 導入の背景と意義

- **岡田俊輔氏の発言:**
 - 「東芝グループは『人と地球の明日のために』をビジョンとして掲げ、多様な事業領域で活動しています。この幅広い事業特性を活かし、相乗効果を生み出すことを狙っています。」
 - 「生成 AI は自然言語で繋がれる点が非常に大きい。AI 活用のハードルが下がった今、この技術をどう活かすかを真剣に考えています。」
- **導入の狙い:**
 - 幅広い事業特性を生かし、生成 AI を通じて業務効率化だけでなく、新しい価値の創出を目指す。
 - 持続可能な社会課題（カーボンニュートラル、インフラの老朽化対応など）の解決にも取り組む。

2. 取り組みの詳細

生成 AI 活用のプロセス

- **岡田氏の発言:**
 - 「AI を使って何が良くなるのか、どんな効果があるのかを社内で実証しました。その上で生成 AI 活用の民主化に取り組み、1 万人規模の活用を目指

しています。」

- 「単に『使え』というのではなく、伴走型のワークショップを通じて社員のやる気を引き出すような動きを行っています。」

- **教育とガイドライン:**

- IT スキル教育を e ラーニングで提供。生成 AI に特化した教育メニューも加え、従業員の能力向上を図る。
- 社内データの扱い方について、セキュリティ基準に応じた明確なガイドラインを作成。「わかりやすさ」を重視して漫画形式も採用。

活用事例

- **業務効率化:**

- 「90 日かけていた自由記述コメントの分類を 1 日に短縮。生成 AI の活用により劇的な効率化が実現しました。」
- 「翻訳作業やソースコードのレビュー・仕様書化でも高い効果が確認されています。」

- **プロジェクト推進の工夫:**

- 「管理職に『自分の部門費で生成 AI を導入して効果を実感しなさい』としました。これにより、自発的に活用される環境を作ることができました。」

3. 成果と課題

- **成果:**

- 「7 万人規模の従業員がいる中で、生成 AI を用いた具体的な効果が次々と現れています。」
- 「生成 AI は単なる効率化だけでなく、新しい価値や業務スタイルを生む可能性を秘めています。」

- **課題:**

- 「誰でも使える状態を目指す中で、従業員間で生成 AI への興味や理解に濃淡があります。これを乗り越えるためには、トップダウンとボトムアップの両輪が重要です。」
- 「生成 AI の利用が義務化された場合、逆に浸透しにくくなるリスクがあります。使いたい人が主体的に使える環境作りが鍵です。」

4. 今後の展望

- **民主化から多様化へ:**

- 「今年度は民主化のフェーズで、誰でも使える状態を目指しました。次年度は多様化のフェーズに入り、生成 AI を用いてお客様と一緒に新しい付加価値を生み出していきたい。」

- **社内外のシフト:**
 - 「これからは社内業務の効率化だけでなく、お客様に提案し、サービスを共創する方向へシフトしていきます。」
-

5. 人と AI の役割分担

- **AI の位置づけ:**
 - 「AI は副操縦士 (Copilot) です。最終判断は人が行いますが、生成 AI は幅広い知見を提供し、人の判断を支える存在です。」
 - **求められるスキル:**
 - 「判断力、そして物事の軸を持つことが重要です。最終的には人間が責任を持ってアウトプットを形にする必要があります。」
 - 「生成 AI は、私たちの世界を広げ、新たな可能性を発見させてくれるツールとして活用すべきです。」
-

この詳細な要約では、岡田氏の言葉遣いや文脈を重視し、各ポイントを明確にまとめました。他の部分の補足が必要な場合はお知らせください。

4o

あなた:

それぞれのセッションの区切りに、Q&A が行われています。その内容を、できるだけ本人の言い回し、表現を使って、詳細に要約してください。

ChatGPT:

ChatGPT

以下は、文書内の各セッション後の Q&A 部分を、可能な限り話者の言い回しを反映しながら詳細に要約したものです。

1. 東芝の生成 AI 導入の背景と意義に関する Q&A

質問: 生成 AI の民主化を進める上で、従業員間の関心や理解の濃淡をどのように克服しているのか？

- **岡田氏の回答:**
 - 「確かに、生成 AI への関心や理解には濃淡があります。私たちは、誰もが使いたいと思えるような環境を作ること、そして使いたい人が自分から手を挙げられる状況を作ることが重要だと考えています。」
 - 「例えば、各部門の管理職には自分の部門費で生成 AI を導入してもらうよう求めました。これは、使いたいと思う人が自発的に導入し、効果を実感するための仕組みです。」
-

2. プロジェクト推進と導入プロセスに関する Q&A

質問: トップダウンとボトムアップの両輪で進めているとのことだが、その具体的なバランスは？

- 岡田氏の回答:
 - 「トップダウンだけでもダメだし、ボトムアップだけでも限界があります。私たちは、生成 AI の効果をトップが示しつつ、現場で使いたいと思った人たちが自発的に使える環境を作るよう努めました。」
 - 「一例として、ダッシュボードを用いて生成 AI の利用状況を可視化し、効果を共有しました。ただし、『使え』と強制することは一切していません。」

質問: 部門ごとに導入の濃淡があるのはなぜか？

- 岡田氏の回答:
 - 「部門ごとの濃淡は、管理職の資質や興味の差が大きいと思います。生成 AI の導入は業務効率を明らかに改善するもので、正しく理解すれば効果を実感できるはずです。そのため、自発的に興味を持ち、試してみたいという気持ちを引き出すような環境作りが重要です。」
-

3. 成果と課題に関する Q&A

質問: 生成 AI 活用の成果を持続させるために工夫している点は？

- 岡田氏の回答:
 - 「単にツールを提供するだけでは効果が持続しません。そのため、リファレンスアーキテクチャを設計し、AI 活用を既存の業務プロセスに統合する仕組みを作りました。」
 - 「また、マーケットプレイスを社内に設け、生成 AI を活用したユースケースや成果を社員同士で共有する取り組みも行っています。」
-

4. 人と AI の役割分担に関する Q&A

質問: AI を活用する中で、人の判断軸や責任の重要性はどう捉えているか？

- 岡田氏の回答:
 - 「生成 AI は副操縦士です。最終的な判断や責任は必ず人が持つべきです。そのためには、管理職がしっかりとした軸を持ち、どういう目的で AI を使うのかを考えることが重要です。」
 - 「AI は道具に過ぎず、お客様や社員のために何が良いのかを判断するのは人間であるべきです。」

質問: 生成 AI と人間の役割分担において、より重要になるスキルは？

- 岡田氏の回答:
 - 「これから求められるスキルは、判断力や軸を持つ力、そして情報を適切に

選択し活用する力です。生成 AI を活用することで、従来の枠を超えた選択肢や気づきが得られるため、それをどう活かすかが鍵になります。」

5. 今後の展望に関する Q&A

質問: 次年度の「多様化」フェーズでは、どのような新たな課題が見えているか？

- 岡田氏の回答:
 - 「次年度は、社内の効率化にとどまらず、お客様とともに新たな価値を創出することを目指します。そのためには、生成 AI の業務効率化だけでなく、サービス開発や質の向上に活用できるかが鍵になります。」
 - 「お客様との取り組みでは、業務効率改善だけでなく、より本質的な価値を引き出すための提案が求められます。」

質問: 社員やお客様に生成 AI の利点を浸透させる工夫は？

- 岡田氏の回答:
 - 「生成 AI の利点を浸透させるには、分かりやすく伝えることが重要です。漫画を使ったガイドラインや、ワークショップを通じた直接的な教育が効果的でした。」
 - 「また、社内で効果を実感した人々が、自発的に広める仕組みを作ることも有効です。」

これらの要約は、話者の言葉遣いをできる限り反映しつつ、Q&A のポイントを詳細に整理したものです。他のセッションや追加部分の要約が必要であればお知らせください。